

日本学術会議  
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会  
海の学びカリキュラム小委員会（第25期・第5回）  
議事要旨

日時 令和5年3月23日（木）18:00～20:10

会場 ビデオ会議にて開催

出席（小委員会委員）日置 光久（連携会員）、氷見山 幸夫（連携会員）、小川 博久、小澤 鷹弥、川真田 早苗、嵩倉 美帆、田中 隼人、辻 健、丹羽 淑博

（参考人）大和 淳

### 議題

#### 1)はじめに

- ・日置委員長より、今回の話題提供者である参考人の大和淳先生と氷見山委員の紹介が行われた。
- ・日置委員長より、最新の書籍紹介がなされた。

#### 2)話題提供①（参考人：大和淳氏）＋質疑応答

- ・「水族館教育と学校教育のつながりを考える～現実と将来像」と題し、博学連携についての具体事例とその理論についての報告がなされた。
- ・水族館の定義、そして水族館での教育をマリンピア日本海の紹介を含めて概観され、学校教育との連携並びにその連携にかかわる課題について、事例紹介も含めて紹介された。
- ・小川委員より、動物福祉についての質問があり、大和氏より、水族館において危機感がまだまだ薄いことや、タッチ水槽の活用の仕方などに課題があることの説明がなされた。
- ・氷見山委員より、高校時代を回想しながら、海藻を水族館で展示できればなお学習の幅が広がるのではないかと提案があり、大和氏より、葛西臨海水族園やアクアマリンふくしまにおいても（もちろん当館においても）海藻が育ちやすいLEDライトの活用など、技術的発展もみられると説明がなされた。また、水と光との関係性においても言及された。
- ・小澤委員より、水族館と食育についての質問があり、具体事例としてふくしまマリンと加茂水族館の事例が紹介なされ、日本らしい水族館のあり方やアニマルヘルスについても言及された。
- ・嵩倉委員より、ユニバーサルデザインにかかわる展示例や社会教育施設側と学校側との

課題解消のためのヒントについて質問があり、前者は、視覚（聴覚）障がいがある方向けのプログラムを実施していること、かごしま水族館には手話のできるスタッフがいることが紹介された。後者については、教育普及が一番大切だということを職員に向けて話をすること、また学校とのやり取りについては、他者をどのように慮ることができるか、という点で重要であることが回答された。

- ・田中委員より、所属している葛西臨海水族園で開催している教員セミナーでは、水族館でどのようなことを行っているかを知ることができるためにも実施しているとの紹介があった。

### 3) 話題提供②（氷見山委員）＋質疑応答

- ・フューチャー・アース（FE）の誕生も含む、持続可能な開発（Sustainable Development）に関する国際的枠組みや、グローバル研究ネットワークについて等の報告がなされた。
- ・辻委員より、実践事例を基に、SDGs のそれぞれの目標が大人の世界に留まっている現状がみられるという課題共有があり、氷見山委員より秋田県のユネスコスクールの事例が紹介をなされた。
- ・日置委員長より、次期学習指導要領へ向けた「海」にかかわる教育の関連性について意見がなされた。
- ・氷見山委員より、8月実施予定のフォーラムでも、国連海洋科学の10年にふれるべきではないかと意見が出された。

### 4) その他

- ・次回の小委員会の実施日時については、改めて、幹事の嵩倉委員よりメンバーに連絡される。